

大阪府生活協同組合連合会

〒542-0012大阪府中央区谷町7-4-15 大阪府社会福祉会館内
tel.06-6762-7220 fax.06-6762-7296
URL : <http://osaka-union.coop/>

会報

KAI-HOU

No.314
2015.1.1



2014年度生協大会

	新年のご挨拶	1
[開催報告]	2014年度生協大会～活動交流会～	2
[連載]	“女だから”“男だから”はもうやめよう	4
[スケジュール]		5

新年のご挨拶

たゆまぬ反省と努力

大阪府生活協同組合連合会
会長理事 惣宇利 紀男



皆さま明けましておめでとうございます。

昨年は、大阪府生活協同組合連合会の創立60周年を無事終えることができました。これもひとえに会員生協さまのご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

現在、国際社会ではアメリカに代表される民主主義及びそれに付随するグローバル化が進行する一方、イスラムに代表されるような特定の民族、宗教、言語などに基礎を置く反グローバル化の動きが対峙するような様相を召しています。

アメリカは文字通り人種のるつぼであり、多種多様な民族、宗教、言語を巻き込んだ国家であり、それを統治する原理は民主主義の多数決となっています。だからこそ世界はこの民主主義で統治されるべきであり、グローバル化も必然の道なのかもしれません。

しかし一方で、自国の民族、宗教、言語に自己の存在意義を見いだしたいとする自己主張も納得できるものを持っています。これは国際社会が直面している非常に大きな問題です。

どちらかに一方的に加担する気持ちはありませんが、現時点で両者に共通してかけていると思われるのは、相手のことを思いやるという配慮の欠如ではないかと感じています。これらは状況に応じて「思いやり」とか「配慮」とか「社会的貢献」あるいは「CSR」などといった言葉で表現される世界のように思われます。

近江商人の「売り手よし、買い手よし、世間よし」に代表されるように、経済活動一つを取ってみても、売り手の都合だけで商売をするのではなく、買い手も満足し、さらに商売を通じて社会の発展や福利といった社会貢献にも寄与しているかどうか問われなければなりません。

現代社会において一番必要とされているのはこのような社会的貢献であり、この精神を一番色濃く持っている組織の一つが生協ではないかと思っています。国際社会のみならず国内においても、非正規労働者、男女共同参画社会、格差社会、買物難民、夕食宅配、老老介護、食の安全・安心等々気になる問題が山積しています。生協は、長年、地域に寄り添う組織として社会貢献をしてきたつもりですが果たしてそうかと絶えず反省しながら行動する気持ちが大切ではないかと思っています。昨年還暦を迎えた大阪府生活協同組合連合会はこれを機に会員生協様とともに組合員の期待に応えるべく更に努力を重ねて参ります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2014年度 「生協大会～活動交流会～」を開催しました

11月20日(木)ドーンセンター（府立男女共同参画・青少年センター）7階ホール・1階パフォーマンススペースにて「2014年度生協大会～活動交流会～」を開催し、20会員生協、他団体等から316名が参加しました。

今年の生協大会は、「こころ豊かな暮らしへの第一歩～健康づくり～」をテーマに、講演会と、会員生協の取り組み事例を学びました。

コープ自然派ピュア大阪の海老根理事（生協大会実行委員）の司会により開会し、惣宇利会長理事からの挨拶の後、基調の講演会を行いました。

講演は、医療法人 貴島会 ダイナミックスポーツ医学研究所 顧問の土井龍雄さんを講師に「健康づくりのための歩行プログラム—セーフティウォーキング—」と題してお話いただきました。

土井さんからは、運動器の障害により日常生活での自立度が低下し、要介護や要介護の危険性のある状態「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」が増えている中、身近な健康づくりとしての歩行プログラム「セーフティウォーキング」の重要性について、実技指導を交えながら講演いただきました。参加者から「わかりやすく、楽しく聴かせていただきました」「ただ歩くだけでなく、効果や注意点の説明が理解できた」「もう少し、くわしく教えていただきたいなと思います。委員会の集いで企画したい」「ウォーキングは盛んですが、膝に持病のある人が、ただ歩くことで悪化させる事例もある。正しい知識が必要であることを理解した」等の感想が寄せられました。

会員生協からの活動報告では、きづがわ医療福祉生協から「地域まるごと健康づくり」として、街頭健康チェック、保健学校、脳イキキ教室など多彩に取り組まれている活動の報告がありました。コープこうべから「心豊かなくらしづくりと生活文化の向上に貢献～コープこう



土井さんの講演会

べのスポーツ事業について～」として、コープこうべの文化事業として取り組まれているコープスポーツの活動、コープカルチャーの健康関連講座等について報告がありました。大学生協阪神事業連合から「大学生協連合会 大阪・兵庫・和歌山ブロックの取り組み」として、大学生の健康への関心の低さから、食生活にスポットをあて栄養管理士の協力による食生活相談会の取り組み等について報告がありました。

2部の展示交流会では、9会員（大阪いずみ市民、大阪よどがわ市民、おおさかパルコープ、コープこうべ、コープ自然派ピュア大阪、生活クラブ生協大阪、きづがわ医療、医療生協かわち野、全労済）と大阪ユニセフ協会、大阪省エネラベルキャンペーン実行委員会、消費者支援機構関西からの出展で交流が行われました。きづがわ医療福祉生協のブースでは、基調講演で紹介があった測定機械による歩行チェックの体験コーナーがあり行列が出来ました。



きづがわ医療福祉生協、コープこうべ、大学生協阪神事業連合から活動報告



展示会場での交流

“女だから”“男だから”はもうやめよう!

私が思う男女共同参画

大阪よどがわ市民生協
理事 井上 浩子

いろいろな学びの機会に触れたり市民活動に参加する中で、改めて感じるのは、「教育」というものの力と可能性です。そしてそのベクトルは必ずしも「良い」方向とは限らないということも。

公教育に限らず、家庭から、地域から、そして様々なメディアをとおして多様な概念や情報に触れ、日々ヒトの思考は影響され続けていきます（成長、とも言います）。一見それは自由で自発的な選択であるようでいて、しかしながら、外部の大きな思想や意思にコントロールされたものであるのかもしれない。この会報を手にとられているような方々であれば、そのジレンマには気付いておられることと私は想像しています。

ジェンダー平等、という問題についても同様です。これまで自分が女性だ、ということに関するいろんな疑問やコンプレックや壁に向きあわない日はなかったのですが、同時に、そう思っている自分はなぜそれを疑問や壁と感じているのか、そういう根本的な問題もあります。そして、このジェンダー協議会の討議の中でも、毎回みなさんのそういった戸惑いや疑問に触れています。

きっと、答えなんてありません。

大事なのは、そんな疑いの目も持ち合わせるということではないでしょうか。他者に対しても、自分に対しても。そして、それは何かを否定したり批判したり糾弾したりするものではなく、違いを認め、許容し、またそこからいっしょに考えていくためのものであってほしいと願います。

国のほうでは道徳の教科化がすすめられています。そういう目を、心を育てる教育であってほしいと思います。何か特定の価値（フィルター）を植え付けるためのお勉強になってはいけない。いろいろな価値に振り回されず流されず、どんと受け止められる、自分の力で物を考えられる次の世代を作ってほしいです。

まあ、政府的にはそんな人間が増えても迷惑なだけなんではなかろうけどね。

だからこそ、私たち草の根の「教育」が大事な時期だと思います。

男女共同参画だって、行政に任せてらんない！のです。平等？均等？均衡？言葉のマジシャンたちに騙されるな、と安斎育郎さんのお話にありました。知人が受けたニュースの街頭インタビューも、放送時はうまく編集されていました。そんな身近な、わかりやすい「？」をもっと広げていきたい。そこから草の根教育は広まっていくと思います。

自覚ある「葦」を束ねれば、三本の矢よりもさらに強くなるのではないのでしょうか。

スケジュール

1月

- 5日 仕事始め
- 13日 全国政策討論集会（～14日）
- 15日 ジェンダーフォーラム協議会 福井県民生協視察
- 16日 つながろう CO・OP アクション交流会（～17日）
- 22日 2015年新年講演会
- 24日 COP20報告会
- 26日 第3回組織活動委員会
- 29日 第4回関西地連運営委員会
- 29日 第4回府県連活動推進会議

2月

- 4日 平成26年度地方消費者グループ・フォーラム in 滋賀
- 7日 ワン・ワールド・フェスティバル（～8日）
- 12日 ジェンダーフォーラム協議会（臨時）
- 19日 災害対策研修会
- 26日 福祉と共生のまちづくりフォーラム
- 28日 東日本大震災支援企画

3月

- 5日 ジェンダーフォーラム協議会学習講演会
- 11日 3.11 from KANSAI 2015
- 16日 第1回生協大会実行委員会
- 16日 会報315号発行
- 19日 第6回理事会
- 21日 第3回近畿地区生協府県連協議会
- 26日 福島里帰りバス（往路）
- 27日 コヨット in おおさか2015春（～30）
- 31日 福島里帰りバス（復路）